

科目名	理科 科目： 化学 I	使用教材	教科書 高等学校 化学 I (数研出版) 副教材 改訂版 化学 I 学習ノート (数研出版) 基礎問題のプリント センター対策のプリント
単位数	3年次： 2単位選択 スーパー進学コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子 (発問への対応、実験演習への取り組み、その他) 提出物 (ノートチェック・演習プリント・宿題)

学習到達目標

- ・ 身の回りに存在する有機化合物の特徴について、その分類と応用を学ぶ。(第4編)
有機化学を学ぶことにより、他の教科とも連動して、生命の大切さと共に豊かな生活を学ぶ。
- ・ センター試験対策ならびに一般入試に必要な学力をつける。他の教科の学習方法につなげられることも模索していく。

I. 授業について

授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業して行きます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。

有機化学の内容は今まで学習した内容と大きく変化します。今まで「化学は難解だ。」と感じていた人も「有機化学になって化学がわかるようになった。」と言います。逆に「今まで順調だったのに、有機化学になってわからなくなった。」という人もいます。どちらも良い方向へ行くように努力しましょう。

センター試験対策の時間は早期の段階で、過去問題に触れていきます。前期は第3編までの内容を演習していき、後期は第4編の有機化学を含めた総合演習をします。

II. 自主学習について

化学の時間は時間内に覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、新聞やニュースなどを通して関連性のあるものに興味を持っておきましょう。

また、化学薬品や実験器具を多用することがあるので、常に安全に気を配りましょう。

◎予習

上に書いてあるとおり、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまで行く！」と予想される部分を読んでおくの良いでしょう。ただし、予習課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

授業時間内に覚えてしまう、ということは大原則です。

センター試験において「90点以上の得点」を目標にしましょう。センター試験の化学の問題は「基本問題」「身近な化学」「正誤問題」「計算問題」というように多岐にわたって出題されますので基礎学力を十分つけておけば満点も夢ではありません。しかしながら、実力を持っていてもなかなか得点できない場合があります。それは「単純な計算ミス」「桁数の思い違い」「正解さがしなのか間違いさがしなのかを誤った」というケースが多いので、多くの問題を繰り返して解いていき、ケアレスミス(不注意なミス)をなくしましょう。同じミスを二度目はしない、ということを積み重ねれば大きな力となります。

Ⅲ.評価について

◎ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

◎ 評価の観点 (①②③について総合的に評価して、100 点満点で数値化します。)

- ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
 ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べているかを観ます。(関心・意欲・態度)
 ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月 5月 6月 7月 9月 10月 11月		第4編 物質の性質(Ⅱ) (有機化学) ①有機化合物の分析 ②脂肪族炭化水素 ③官能基を持つ有機化合物 ④芳香族炭化水素 ⑤他の芳香族化合物	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の基本を理解する。 有機化合物の性質や構造について、系統的に理解する。 芳香族化合物の性質や構造について、系統的に理解する。 	<p>●有機化合物は生命に関係のある物質であると共に燃料や医薬品にも応用されていることにも気づき、その恩恵を感じ取る。</p> <p>※生命に関連する物質はどのようなものであるのかを常に考え、身の回りのどこにあるのかに気付く。生活の便利さに気付く。</p> <p>※身近な医薬品の構造を知り、そのありがたさ、ならびに無限の可能性を持つ有機化合物に気付く。</p> <p>※分類や構造は単元の壁を越えて系統的に覚える。</p>
1月 2月 3月		センター試験対策 ①第4編「有機化学」 ②総合演習 ③2次試験対策(理系)	<ul style="list-style-type: none"> センター試験において、「90点以上の得点」を目標に掲げ、それに向けて全力を尽くす。 設定目標 第1問(基礎化学) 25点満点 第2問(理論化学) 25点満点 第3問(無機化学) 20点以上 第4問(有機化学) 20点以上 	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題に挑戦するのはもちろんのこと、類似問題を何回もやり切る。 ※センター試験に向けての演習を繰り返すことで、将来の夢を模索し人間としての成長をめざす。 ※2年次より、自主学習によって積み上げてきた「化学Ⅱ」の内容も連動させる。
4月 6月 9月 10月 11月 12月 1月		センター試験対策 ①第1編「基礎化学」 ②第2編「理論化学」 ③第3編「無機化学」 ④第4編「有機化学」 ⑤総合演習 ⑥2次試験対策(理系)	<ul style="list-style-type: none"> センター試験において、「90点以上の得点」を目標に掲げ、それに向けて全力を尽くす。 2次試験において、国公立大学「70点以上の得点」を目標に掲げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1～3編の過去問題演習 第4編を含めた総合演習 ※2年次より、自主学習によって積み上げてきた「化学Ⅱ」の内容も連動させ、入試のみならず大学入学後、しいては今後の人生にいかせるようにする。

科目名	理科 科目： 化学 I	使用教材	教科書 高等学校 化学 I (数研出版) 副教材 改訂版 化学 I 学習ノート (数研出版) 基礎問題のプリント
単位数	3年次： 2単位選択 ベーシック3コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子(発問への対応、実験演習への取り組み、その他) 提出物(ノートチェック・演習プリント・宿題)

学習到達目標

- ・ 日常に存在する物質の成分を考えながら身近な化学反応をあげ、自然界や人工合成物の素材を知る。
- ・ 理科基礎(化学編)で学んだことを基礎として、その内容を深めていく。
- ・ 広い視野に立ち、身の回りの現象について常に科学的な思考力と洞察力を持って接する姿勢を育てる。

I. 授業について

授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業して行きます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。

単元ごとに簡単な実験を随時入れて行きます。安全には細心の注意を払いましょう。

II. 自主学習について

化学の時間は時間内に覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、新聞やニュースなどを通して関連性のあるものに興味を持っておきましょう。

◎予習

上に書いてあるとおり、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまで行く！」と予想される部分を読んでおくの良いでしょう。ただし、予習課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

授業時間内に覚えてしまう、ということは大原則です。よくわからない箇所は必ず先生に聞きに行き、復習しましょう。

III. 評価について

◎ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

◎ 評価の観点 (①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。)

- ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
- ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べる事ができているかを観ます。(関心・意欲・態度)
- ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものをを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月		第3編	<ul style="list-style-type: none"> 無機化合物の基本を理解する。 無機化合物の性質や構造について、系統的に理解する。 ※日常生活への応用 <ul style="list-style-type: none"> 気体、イオン、沈殿の色を理解する。 ※身の回りのどこにあるのかに気付く。	●元素の分類と周期律・典型元素と遷移元素などの分類をすることにより、元素の世界にも「規則性」と「仲間(族)」のあることを感じ取る。 ※元素の分類を系統的に覚えるために、単語カードのようなものを利用する。
5月	物質の性質 (I)			
6月	(無機化学)			
7月	①元素の周期表			
9月	②典型元素			
10月		第4編	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の基本を理解する。 有機化合物の性質や構造について、系統的に理解する。 ※日常生活への応用 <ul style="list-style-type: none"> 芳香族化合物の性質や構造について、系統的に理解する。 	●有機化合物は生命に関係のある物質であると共に燃料や医薬品にも応用されていることにも気づき、その恩恵を感じ取る。 ※生命に関連する物質はどのようなものであるのかを常に考え、身の回りのどこにあるのかに気付く。生活の便利さに気付く。 ※身近な医薬品の構造を知り、そのありがたさ、ならびに無限の可能性を持つ有機化合物に気付く。 ※分類や構造は単元の壁を越えて系統的に覚える。
11月	物質の性質 (II)			
1月	(有機化学)			
2月	①有機化合物の分析			
	②脂肪族炭化水素			
	③官能基を持つ有機化合物			
	④芳香族炭化水素			
	⑤他の芳香族化合物			

科目名	理科 科目： 化学 I	使用教材	教科書 高等学校 化学 I (数研出版) 副教材 改訂版 化学 I 学習ノート (数研出版) 基礎問題のプリント センター対策のプリント
単位数	3年次： 2単位選択 スーパー進学コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子 (発問への対応、実験演習への取り組み、その他) 提出物 (ノートチェック・演習プリント・宿題)

学習到達目標

- ・ 身の回りに存在する有機化合物の特徴について、その分類と応用を学ぶ。(第4編)
有機化学を学ぶことにより、他の教科とも連動して、生命の大切さと共に豊かな生活を学ぶ。
- ・ センター試験対策ならびに一般入試に必要な学力をつける。他の教科の学習方法につなげられることも模索していく。

I. 授業について

授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業して行きます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。

有機化学の内容は今まで学習した内容と大きく変化します。今まで「化学は難解だ。」と感じていた人も「有機化学になって化学がわかるようになった。」と言います。逆に「今まで順調だったのに、有機化学になってわからなくなった。」という人もいます。どちらも良い方向へ行くように努力しましょう。

センター試験対策の時間は早期の段階で、過去問題に触れていきます。前期は第3編までの内容を演習していき、後期は第4編の有機化学を含めた総合演習をします。

II. 自主学習について

化学の時間は時間内に覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、新聞やニュースなどを通して関連性のあるものに興味を持っておきましょう。

また、化学薬品や実験器具を多用することがあるので、常に安全に気を配りましょう。

◎予習

上に書いてあるとおり、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまで行く！」と予想される部分を読んでおくといいでしょう。ただし、予習課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

授業時間内に覚えてしまう、ということは大原則です。

センター試験において「90点以上の得点」を目標にしましょう。センター試験の化学の問題は「基本問題」「身近な化学」「正誤問題」「計算問題」というように多岐にわたって出題されますので基礎学力を十分つけておけば満点も夢ではありません。しかしながら、実力を持っていてもなかなか得点できない場合があります。それは「単純な計算ミス」「桁数の思い違い」「正解さがしなのか間違いさがしなのかを誤った」というケースが多いので、多くの問題を繰り返して解いていき、ケアレスミス(不注意なミス)をなくしましょう。同じミスを二度目はしない、ということ積み重ねれば大きな力となります。

Ⅲ.評価について

◎ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

◎ 評価の観点 (①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。)

- ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
 ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べているかを観ます。(関心・意欲・態度)
 ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月 5月 6月 7月 9月 10月 11月		第4編 物質の性質(Ⅱ) (有機化学) ①有機化合物の分析 ②脂肪族炭化水素 ③官能基を持つ有機化合物 ④芳香族炭化水素 ⑤他の芳香族化合物	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の基本を理解する。 有機化合物の性質や構造について、系統的に理解する。 芳香族化合物の性質や構造について、系統的に理解する。 	<p>●有機化合物は生命に関係のある物質であると共に燃料や医薬品にも応用されていることにも気づき、その恩恵を感じ取る。</p> <p>※生命に関連する物質はどのようなものであるのかを常に考え、身の回りのどこにあるのかに気付く。生活の便利さに気付く。</p> <p>※身近な医薬品の構造を知り、そのありがたさ、ならびに無限の可能性を持つ有機化合物に気付く。</p> <p>※分類や構造は単元の壁を越えて系統的に覚える。</p>
1月 2月 3月		センター試験対策 ①第4編「有機化学」 ②総合演習 ③2次試験対策(理系)	<ul style="list-style-type: none"> センター試験において、「90点以上の得点」を目標に掲げ、それに向けて全力を尽くす。 設定目標 第1問(基礎化学) 25点満点 第2問(理論化学) 25点満点 第3問(無機化学) 20点以上 第4問(有機化学) 20点以上 	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題に挑戦するのはもちろんのこと、類似問題を何回もやり切る。 ※センター試験に向けての演習を繰り返すことで、将来の夢を模索し人間としての成長をめざす。 ※2年次より、自主学習によって積み上げてきた「化学Ⅱ」の内容も連動させる。
4月 6月 9月 10月 11月 12月 1月		センター試験対策 ①第1編「基礎化学」 ②第2編「理論化学」 ③第3編「無機化学」 ④第4編「有機化学」 ⑤総合演習 ⑥2次試験対策(理系)	<ul style="list-style-type: none"> センター試験において、「90点以上の得点」を目標に掲げ、それに向けて全力を尽くす。 2次試験において、国公立大学「70点以上の得点」を目標に掲げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1～3編の過去問題演習 第4編を含めた総合演習 ※2年次より、自主学習によって積み上げてきた「化学Ⅱ」の内容も連動させ、入試のみならず大学入学後、しいては今後の人生にいかせるようにする。

科目名	理科 科目： 生物 I	使用教材	教科書 高等学校 改訂 生物 I (第一学習社) 副教材 自作プリント
単位数	3年次：2単位 ベーシックコース	評価方法	定期考査、小テスト、 授業の様子（発問への対応、実験演習への取り組みその他） 提出物（ノートチェック・演習プリント・宿題）

学習到達目標

- ・生物に関する事物・現象についての観察・実験などを行い、日常生活と生物のつながりに対する関心や探究心を高める。
- ・生物という教科における基本的な概念や原理・法則を理解することにより、科学的な自然観を育てる。
- ・生物という単発の教科でなく、他の教科とも連動して相互に応用の利く内容を見つけ総合的な知識を得る。

I. 授業について

授業内容は2年次の授業内容の継続です。基本的に教科書の内容に沿う形で進めていきますが、必要に応じて編集・精選をして授業を行っていきます。また、教科書の進行と同時にプリントを配布し、重要項目や教科書には載っていない重要項目の説明も行っていきますので、配布されたプリントは自分のノートに貼り付けましょう。

教科書で難しい説明がされている箇所等は、身近な事柄に置き換えて説明をしていきますので、「自分が見返して分かりやすいノート」に作り上げましょう。

黒板には様々な事柄を書いていきますが、重要な項目には必ずチェックを入れていきますのでノートは積極的にとりましょう。

実験は、薬品や刃物を使う事が必ずあります。ちょっとした気の緩みや不注意は大きな事故の元になります。実験時には、気を落ち着けて周囲に注意を払い取り組んでください。

II. 自主学習について

基本的には、授業時間内に新たな事柄（原理・概念・植物や動物の部位の名称等）を学習していきます。授業前に教科書を一度読んでおくと授業内容が非常に分かりやすくなります。特に、今までに聞いたことのない言葉等が出てきますので、専門用語等は教科書にチェックを入れておくと良いでしょう。

○予習に関して

上記の通り、深く予習する必要性はありませんが、新しい言葉（専門用語等）が出てきますので、教科書を一度読んでおき、新しい言葉（専門用語等）にはチェックを入れておきましょう。

○復習に関して

初めて聞く言葉等が多く出てくる教科です。授業時間だけでは知識になりにくいと思います。授業内容は必ず見返して専門用語等は覚えていきましょう。また、授業時間内に理解できなかった内容は、担当の先生に質問に行くか、または、次の時間に質問しましょう。

Ⅲ.評価について

- 評価の対象 ①定期考査 ②授業（実験）の様子 ③提出物
- 評価の観点（①②③について総合的に評価して、100点満点で数値化します。）
 - ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。（知識・理解）
 - ② 授業に取り組む姿勢を評価します。発問に対して自ら考え、自分の答えを述べているか等。（関心・意欲・態度）
 - ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。（発展・協調）

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点	
4月		遺伝の法則	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の形質は、細胞に含まれる遺伝子の働きによって現れる＝親の形質は、遺伝子によって子に伝えられることを理解する。 ・遺伝子の所在は染色体の決まった位置に存在することを理解し、染色体の行動が遺伝子の伝わり方に影響することを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●メンデルの法則（優性の法則・分離の法則・独立の法則） ●いろいろな遺伝現象（不完全優性・致死遺伝子・補足遺伝子・条件遺伝子・抑制遺伝子） ●遺伝子の連鎖 ●遺伝子の組み換え ●雌雄の区別に関与する特別な性染色体 ◆いろいろな性決定の方法 ●DNAの構造や形質転換、複製の仕組み ◆突然変異（遺伝子突然変異と染色体突然変異） ※遺伝の法則・突然変異から命の重さを感じ取る 	
5月	遺伝子と染色体				
6月	遺伝子の本体				
9月		第Ⅱ編 環境と生物の反応 刺激の受容 神経系	<ul style="list-style-type: none"> ・動物は、刺激を受け入れ、これに応じ反応する仕組みがあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●刺激を受容してから反応が起こるまで ●眼・耳・筋肉の構造と機能 ●化学物質の受容（嗅覚・味覚） ●ニューロンの構造 ●興奮の伝わり方（伝導・伝達） ●神経系とその働き◆ホタルの発光の仕組み ※体内で起こっている感覚を解明し理解する事で「生きる」事が奇跡の連続から成る事を感じ取る ●生まれつきそなわっている行動（本能行動・刷り込み・） ◆古典的条件付け・試行錯誤・知能行動 	
10月	動物の反応				
11月		液体とその恒常性 植物の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・生物は、変化する環境のなかで、からだの状態や働きをほぼ一定に保つように調節していることを理解する。 ・植物は生活場所の環境の影響を強く受け、また、光は成長・開花・発芽に大きく影響していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●体液の循環、心臓の構造 ●免疫の仕組みと自律神経系、ホルモンによる生態防御 ※自己の身体は日頃の様々な要因に対して生態防御が成されている事を知り、不自由なく機能する身体的神秘を感じ取る ●植物の成長に影響を与える環境要因 	
1月	植物の反応と調節				
2月				<ul style="list-style-type: none"> ●植物の成長や分化の仕組み ●花芽形成・種子の発芽における環境要因の影響 	

科目名	理科 科目：生物 I	使用教材	教科書 高等学校 改訂 生物 I 副教材 基礎問題のプリント センター対策のプリント
単位数	3年次： 2単位選択 スーパー進学コースの選択者	評価方法	定期考査、復習テスト、暗記物の面談テスト 授業の様子（発問への対応、実験演習への取り組み、その他） 提出物（ノートチェック・演習プリント・宿題）

学習到達目標

- ・ 理科基礎（生物編）で学んだことを基礎として、その内容を深めていく。さらに進んだ生物学的な方法で生物や生命現象に関する問題を取り扱い、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、探求の過程を通して、科学の方法を習得し科学的な自然観を育てる。
- ・ 難関大学入試やセンター試験への対策へ結びつけていく。

I. 授業について

授業内容については基本的には教科書にそって進めていきますが、内容によっては理解しやすいように編集して授業して行きます。重要なポイントや日常生活に切り離せないことを板書にて強調しますので、ノートは必ずとりましょう。また、単純に板書内容をノートに写すのではなく、自分が理解しやすいようレイアウトすれば良いでしょう。授業で書いたノートを家庭学習にて別のノートに清書すれば、効果は上がります。

「理科基礎」の授業において、ある程度の基礎的な内容は学習しておりますが、その内容をさらに深めていきます。

II. 自主学習について

生物の時間は時間内に内容を覚えてしまうことを前提に進めていくので、特に予習は不要です。とにかく生物は覚えることが多いので1時間の授業に集中しましょう。その時間に学習した内容はその時間中に覚えてしまいましょう。また、授業内でふれることのできなかつたものも多くなると思うので、自分にあつた参考書や問題集で学習を深めましょう。新聞記事やニュースなどで関連性のあるものに興味を持ちましょう。何事も興味と疑問を持つことが向上につながります。身近な生物と触れ合うことも大切です。

◎予習

上に書いてあるとおり、特に予習は必要ではありませんが、余力があれば「ここまで行く！」と予想される部分を読んでおくの良いでしょう。ただし、予習課題がある場合は必ずやっておきましょう。

◎復習

授業時間内に覚えてしまう、ということは大原則です。しかし、授業時間内に理解できなかった場合は必ず担当の先生に聞きに行きましょう。

また演習問題や関連性のある事項を数多くこなして行きましょう。

単元終了ごとにミニテストを行いますので理解度チェックのために活用しましょう。また理解度が十分な人は理解できていない人に教えてあげましょう。他人に教えることによって、理解度は深まります。

Ⅲ.評価について

◎ 評価の対象

- ①定期考査など ②授業の様子 ③提出物

◎ 評価の観点 (①②③について総合的に評価して、100 点満点で数値化します。)

- ① 各単元や学習内容の理解度を点数化することによってチェックおよび評価します。(知識・理解)
 ② 授業に取り組む姿勢や目の輝きを評価します。具体的に言うと、授業中の教師からの発問に対して間違いを恐れずに自分の考えを述べているかを観ます。(関心・意欲・態度)
 ③ ノート・演習プリント・実験レポートなどの提出状況とその内容を評価します。欠席や出張などで空白がある場合は必ず友人のものを見せてもらい埋めておきましょう。(発展・協調)

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 *心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4月		第5章 内部環境の恒常性 内部環境としての体液 体液の恒常性 自律神経系とホルモン による調節	ヒトという生物の体内環境(呼吸系・循環系・免疫系・消化系・神経系・ホルモン系など)を総合的に学ぶことにより、生物としての自分を理解する。	●ヒトの体の構造を知ることによって日々の生活における健康や食生活などを考える心を育てる。 ※各器官の名前や働きを徹底して覚える。
5月				
6月				
7月		第6章 植物の反応と調節 刺激と植物の反応 成長の調節 花芽形成と発芽の調節 植物の生活と水 植物の生活と光	植物の生長過程やしくみを学ぶことにより、われわれに多くの恩恵を与えてくれる植物のありがたさを理解すると共に、地球環境保護の大切さを理解する。	●植物の生長と行動がすべての生物の基本であることに改めて気づくとともに、生命の神秘を考える心を育てる。 ※光合成と呼吸、ホルモンの行動を系統的に覚える。
9月				
10月				
11月		以後 センター試験対策演習	1月中旬に行われる、大学入試センター試験において80点以上の得点を目指す。	●近年のセンター試験「生物I」の出題傾向を見てみると、暗記項目が多いのはもちろんであるが、一定の実験データを示した後、それについて考察して答えを導くものが多い。従来「生物＝暗記」と考えられていたが、覚えたことを確実に整理して論理的に思考する能力が問われる。
1月				
2月		※以後、理系の者は二次対策		
3月				